上越教育大学研究紀要　第43巻　令和５年８月31日
Bull. Joetsu Univ. Educ., Vol. 43, Aug. 31, 2023

カリキュラムグランドデザインの全体構造の視点と課題に関する研究

－上越市の小学校のグランドデザインを手掛かりに－

野　澤　有　希*

（令和５年１月31日受付；令和５年４月17日受理）

要　　旨

本研究の目的は，カリキュラムマネジメントを行う際，最初の段階であるカリキュラムグランドデザインの全体構成の内容を検討し，特に上越市の小学校のカリキュラムグランドデザインを考察し，作成の視点と課題を明らかにすることである。筆者はまず，カリキュラムグランドデザインの作成視点と内容を検討した。次に，新しい学習指導要領の内容に基づき，育成すべき資質・能力を明確化した二校を抽出し，研究対象校とした。上越市立大手町小学校と上越市立春日新田小学校のカリキュラムグランドデザインを考察した結果，以下の内容にまとめられる。春日新田小学校のグランドデザインが改訂された学習指導要領の三つの柱とカリキュラムマネジメントの充実に基づいた全体バランスよいデザインである。また，教育目標，重点目標，および目標実現するための道筋が明確である。さらに，目標達成するために具体的な指導体制（学習，道徳，健康，特別支援の側面），家庭・地域との連携協働（子供，家庭，地域の取り組み）の組織経営，教育支援および改善策が練られたことが明らかにした。大手町小学校のカリキュラムグランドデザインが目標を達成するために教科を打破し，教育領域で教育内容を括り，子供の主体性を重視する教育活動の写真が多く掲載している資質・能力を重視するデザインである。

KEY WORDS
Curriculum grand design カリキュラムグランドデザイン　Curriculum management カリキュラムマネジメント
Educational goals 教育目標

1　問題の設定

本研究の目的は，カリキュラムマネジメントを行う際，最初の段階であるカリキュラムグランドデザインの全体構成の内容を検討し，特に上越市の小学校のカリキュラムグランドデザインの内容を考察し，作成の視点と課題を明らかにすることである。

新しい学習指導要領の中では，「社会に開かれた教育課程」という教育理念に基づき，次世代のグローバル人材に資質・能力を育成するために，カリキュラムマネジメントを中核的な役割を果たすことが記されている[1)]。「社会に開かれた教育課程」とは，よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し，それぞれの学校において，教育課程を介して社会と世界の状況を幅広く視野に入れ，向き合い，関わり合い，自分の人生を切り拓いていくことである。つまり，教育課程の計画，実施，評価に当たって，資質・能力の育成をより明確化にし，地域の人的・物的資源を活用し，社会教育と連携をはかって，学校内に閉じずに，新しい時代のカリキュラムをデザインし，積極的に実現しようとすることである。また，なぜ学校現場で広く認識されていなかったマネジメント理論を全面的に学校に実質化させるか，その理由としては，激変している社会と世界の趨勢に合わせて日本の未来社会の底力となる人材に新しい資質・能力を育成するという目的を達成するからである。21世紀は「知識基盤社会」の時代に入り，社会の構造の変化の中で能力概念の拡大につれて学校のカリキュラム改革も大きな転換期を迎えている。経済協力機構OECDは「主要能力（キーコンピテンシー）」，アメリカは「21世紀スキル」を提唱し，日本も人材像の三つ柱が打ち出されている。

したがって，学習指導要領では各学校が新しい時代に対応できる資質・能力の育成を明確にし，目標を達成するためにカリキュラムマネジメントの実質化が求められている。経済低迷の30年ともいわれている日本の経済を立て直すために学校教育の古い枠組みを打破し，社会の原動力になるイノベーションを起こせる人材を育成することが喫緊の課題である。すなわち，今回の教育改革は日本の人材像の能力観を明確に打ち出された抜本的な改訂である。しかし

*学校教育学系

ながら，学校現場では新しい資質・能力を盛り込んで目標の明確化，カリキュラムマネジメントの実質化が実現されているとは言い難い状態ではないだろうか。また，カリキュラムマネジメントの実践の課題が山積している。特に，資質・能力を明確にして，どのようにカリキュラムデザインと全体の教育活動に落としていくかについて，まだ先行研究が少ない。

カリキュラムマネジメントについては，これまで，教育課程の在り方を不断に見直し，「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」と，「教育課程の実施状況を評価して改善を図っていくこと」「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図って行くこと」という三つの側面が重要であると強調された[2)]。しかしながら，上述の三つの側面を実施する前に，カリキュラムマネジメントの方向性と全体設計図としてのカリキュラムグランドデザインについて先行研究ではまだ十分に検討されていない。CiNiiの論文でカリキュラムグランドデザインを検索した結果，筆者の一本のみとなる。したがって，本研究はカリキュラムマネジメントの最初の方向性を示す重要な段階であるカリキュラムグランドデザインの作成視点，全体構造の内容を検討することによって，学校現場ではどのようにカリキュラムグランドデザインを設計していくか，また，その方策と道筋を解明したいと考えている。

カリキュラムマネジメントには複雑な要因・要素が絡んで，カリキュラムデザインと組織経営という二つの教育活動に大別される。また，両者は緊密な関係性をもち，カリキュラムデザインの開発と実現が組織マネジメントの支えが欠かせない。中留，田村（2004）はカリキュラムマネジメントの概念を「各学校が教育目標の達成のために，児童，生徒の発達に即した教育内容を諸条件とのかかわりにおいてとらえ直し，これを組織化し，動態化することによって一定の教育効果を生み出す経営活動である」[3)] とまとめた。要するに，各学校は教育目標を達成するために，児童生徒の発達状況，学校の現状に合わせて，カリキュラムを自主的にデザインし，評価し，効率的かつ組織的に経営活動を行うことが重要である。この自主的なデザインとマネジメント活動の目的は企業の業績と大別し，人間性，資質・能力の伸長という教育効果が求められる。しかしながら，商品開発や販売と違い，学校のカリキュラムデザインとマネジメント活動も，教育評価も良しあし判断の基準設定は難しい。具体的に言えば，その学校の状況に合うデザインがベストデザインであり，他の学校に適用できるかどうかは別問題である。つまり，その学校の実情に適合している特色があるカリキュラムグランドデザインが最善な設計図になる。しかし，その創意工夫のデザインが汎用性を持たず一概に良いデザインとは言えない同時に，評価基準の設定も不可能である。ここで注意するところはカリキュラムデザインには学習指導要領で規定されている部分と各学校の創造した独創的なデザインが含まれている。柴田は教育課程の基本問題として，「学校の教育活動を全体としてどのように構成するかという教育課程の全体構造に関する問題」の重要性を指摘した[4)]。しかし，学校現場ではどのようにカリキュラムグランドデザインを作成していくか，構成内容についての検討は十分ではない。とくに，最も重要なカリキュラムグランドデザインという最初のステップは学校の未来の方向性を決め，学校の全体的な教育活動を結束する教育理念とビジョンを示し，舵取りの役割を果たしている。このグランドデザインは教職員全員が共通理解を図って時間をかけて熟考し，練り上げられていたかどうかは教育効果に大きな影響を及ぼす。

学校に基礎をおいたカリキュラム開発（School-Based Curriculum Development）を重視する考えは文部省がOECDのCERIと共催した「カリキュラム開発に関する国際セミナー」で紹介されたものである[5)]。現在，欧米の先進国はナショナルカリキュラムの弊害を解決するために学校にカリキュラム開発の裁量権を委譲し，柔軟で学校を基礎に置いたカリキュラム開発SBCDを重視する政策を制定している。カリキュラムグランドデザインないしカリキュラム開発は国レベルのカリキュラムに基づき，学校の実情，児童生徒のニーズと発達状況に合わせる活動でなければならない。しかしながら，教育課程の基準の弾力化につれて総合的な学習の時間の新設などを機にカリキュラム開発が盛んに行われていたが，学校のカリキュラムグランドデザイン，教科等横断的なデザイン，単元デザイン及び校内の研究開発組織に関する日本の研究はまだ十分とは言い難い。したがって，本稿は上越市の小学校のカリキュラムグランドデザインを考察することを通じて，その作成視点，構成要素としての内容と課題を解明したい。

2 カリキュラムグランドデザインの分析

2. 1 カリキュラムグランドデザインの作成視点

カリキュラムグランドデザインの作成は新しい学習指導要領の改訂に基づき，資質・能力の育成を中心に作成しなければならない。このデザインはただの計画書だけではなく，学校全体的な基本指針として指針化する必要性があ

る。山崎は「学校のグランドデザインは，学校が負っている社会的使命（ミッション）と校長の学校経営ビジョン（経営方針）を，学校全体の具体的計画として構造化したものである。カリキュラムマネジメントに関しては，学校グランドデザインを基本指針として，学校経営，教科経営，学級経営の特色化に結び付け組織的に教育活動を推進していくことが必要になる。そこには学期ごとに，学校グランドデザインと各学年，教科，分掌，学級の経営方針とカリキュラムの実施状況とを対照し，年間計画を点検修正することが肝要である。このように，カリキュラムマネジメントの効果的推進を図るためには，学校グランドデザインを指針化することが学校組織における協働体制確立の第一歩として重要である。」[6] と指摘したように，カリキュラムグランドデザインは学校の教育活動とカリキュラム実践の前提条件として位置付けられる。また，カリキュラムグランドデザインは年間指導計画，単元計画，授業案などカリキュラムの全体構造の各要素（スコープとシークエンス，文系と理系の教科，教科と教科外活動，時間数，探究活動など）をリードし，さらにカリキュラム実施をコントロールし，学校経営および評価も含めて統合的かつ大局的に勘案し，作成する必要性がある。

「この10年，多くの国でカリキュラムの設計方法がより計画的で組織的になったのは驚くべきことである」[7] カリキュラムデザインはなぜ計画的かつ組織に行われなければならないか，まず，我々はカリキュラムグランドデザインの全体構造の複雑性を理解しなければならない。特に，カリキュラムが多層性と系統性を持つ概念として念頭におく必要性がある。カリキュラムという概念自体が変化しつつ，全容を把握しにくい。また，カリキュラムの各層には複雑な要因と要素が絡み合って，どの層をデザインするか，各層のデザインの関係性などを明確にする必要性がある。例えば，野澤（2018）は「各学校のカリキュラムマネジメント活動は，まず，育成すべき資質・能力を明確にし，ビジョンと目標を設定してから，カリキュラムグランドデザインを描く。学校全体の設計図は学校の方向性を示し，教員一同が同じ方向へ努力することが可能になる。ミドルレベルでは年間指導計画デザイン，各学年のカリキュラムデザイン，各単元のカリキュラムデザイン，重点目標で示された重点プロジェクトとして組織された各部門のカリキュラムデザイン，各教科・領域のカリキュラムデザインなどが含まれる。また教室レベルの授業デザインがある」[8]。また，田村（2017）はカリキュラムデザインを三つの階層，つまり，①教育目標を踏まえつなぐグランド・デザイン（全体計画），②全単元を俯瞰し関連付ける単元配列表，③学びの文脈を大切にした単元計画に分けた[9]。さらに，矢の浦は「子供の実態に即し，学校が作成したグランドデザインと日々の授業等の教育活動が，きちんとつながるものにするために行うのがカリキュラムマネジメントなのです」と指摘した[10]。このように，教員が担当する授業計画は上述の末端のデザインであり，グランドデザインに基づき，作成することが必要である。また，カリキュラムグランドデザイン以外には，年間指導計画デザイン，単元デザイン，授業デザインという四層になる。そのうえ，各学校には教科の統合による資質・能力を育成するためには教科等横断カリキュラム，特色があるカリキュラム，総合的な学習の時間などのカリキュラムが学校の現状と児童生徒の発達段階に合わせてデザインする。どのデザインもカリキュラムグランドデザインに基づき，設計しなければならない。一言でいえば，カリキュラムグランドデザインは各段階のデザインを統括する役割を果たす。同時に，各層のカリキュラムデザインの整合性と一体性を持たせるために重要不可欠になる。

また，教員が担当する授業計画だけをデザインすることだけではなく，単元，学年，教科等横断カリキュラム，カリキュラムグランドデザインの作成にも児童生徒の現状や地域・社会の実態に即して，主体的に参加することが求められる。しかしながら，いままで目標設定，グランドデザイン作成の全体構造設計は一部の校長，ミドルリーダーだけが作成することが多く，教員の共通理解を十分に図っていない。高木が指摘したように「グランドデザインは管理職がつくることが多いようですが，こどもと日々接するのは教員であることを踏まえると，学校全体で考えていかなければなりません。そうすれば，先生たちに自校の児童・生徒にどのような力を本当につけさせたいのかを明確化させることにもつながり，指導の重点化など，身に付けさせたい学力を意識した指導が行えるようになります。」[11] 今後，トップダウンではなく逆方向のボトムアップのような児童生徒，保護者，地域の住民からの欲求とニーズを重視し，全員参加でデザインをすることが重要になる。教員の自発なデザインに変換することによって児童生徒の学習意欲と動機を高めることができる。今後，新しい資質・能力を育成するために，如何に児童生徒のニーズに合わせて，俯瞰的に全体的なカリキュラムを新しくデザインしていくかを究明する必要性がある。

さらに「近年とくに学校文化（school culture）またはエートス（ethos）と言われているものが，ある種の価値を表明している場合であろう。優れたカリキュラムデザインは，このような価値を明確につかみ出して，それにカリキュラム計画の目的や目標を結びつけるものでなくてはならない。」[12] カリキュラムグランドデザインは学校の文化，価値観を表明し，将来性を見据えた全体設計図なので，学校全体で重要な価値判断をし，時間をかけてデザインするほうが妥当である。「カリキュラムづくりを行う際に社会に存在する文化のどの部分を選択するかによって，教育は保守的にも進歩的にもなる。カリキュラムをつくる際には，自ずと，次世代に伝えるべき価値の選択が行われること

となる。したがって，カリキュラムをつくる営みは，次の時代を創る人を育て，社会を築く営みの一つと言えるだろう」[13]，このように，カリキュラムデザインは日々の教育活動を通して，児童生徒の資質・能力が育成され，価値の選択，未来社会づくり，人材の育成，文化の選択などに密接な関係を持つ。したがって，各教員は授業研究だけではなく，各レベルのカリキュラムグランドデザインにも参加し，学校の価値判断，方向づけ，資質・能力の検討にも力を注ぐ必要性がある。上述の通り，カリキュラムグランドデザインの作成視点を挙げてきた。とくに，各学校は新しい学習指導要領のポイントを盛り込むこと，各学校の実情，児童生徒の実態に合うこと，合意形成の形態として学校内外の全員参加すること，多層レベルのカリキュラムデザインの一体性と整合性を保つこと，学校全体の計画を俯瞰して作成すること，そのほかに，児童生徒の問題点とニーズ，地域社会の問題を調査し，学校の前年度の評価報告書の精査による問題点と課題を特定し，現状分析する（文脈評価）[14]が欠かせない。また，定期的にカリキュラムマネジメントのPDCAサイクルで見直し，改善することも重要である。

2. 2　上越市のカリキュラムグランドデザインの構成内容

中教審の『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』（2016）では「学校のカリキュラムグランドデザインや学校経営計画に記される学校教育目標などの策定は，教育課程編成の一環であり，カリキュラム・マネジメントの軸となるものである」と明示されている[15]。また，新しい学習指導要領では各学校の教育目標の明確化と資質・能力の三つの柱のバランスの取れた育成（総則第１の３，第２の１）が明記されている[16]。このように，新しい学習指導要領の教育理念と内容に基づき，新しい改訂の方針，資質・能力を明確に盛り込むカリキュラムデザインが求められている。また，学習指導要領は各学校の教育目標の設定と教育課程の編成に当たっては，「学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第５章総合的な学習の時間の第２の１に基づき定められる目標との関連を図るものとする。」[17]と記されたように，教育目標を達成するために，我々はカリキュラムグランドデザインの作成，教科等横断的なカリキュラム開発，教育内容，教育方法等の選択と組織，教育課程の編成，実施，評価，改善のPDCAサイクルの活用，人的・物的な体制の確保などの活動を行っていく。しかしながら，教育目標が曖昧になると，教育活動の方向性を失って，教育効果を生み出せないのである。それゆえ，教育目標，教育ビジョンを設定し，方向性を定めるプロセスが教育活動の中で最も重要である。したがって，カリキュラムマネジメントを実質化させるために，カリキュラムグランドデザインの教育目標の明確化が最も重要なことである。我々はカリキュラムグランドデザインを作成する際，教育目標を明確化すると同時に教育目標達成の道筋も明確に定める必要性がある[18]。企業のマネジメント理論にも戦略と実践力が求められ，戦略とは，自社が攻めるべき市場や，そこでの競合状況を明確にして，自社の強みを生かし，いかに市場のシェアを自社のものとし，収益性高く発展性のあるビジネスを作るかというプランであり，その際の経営の方向性，道筋を明確にしたシナリオである[19]。この企業の成功に向けた戦略とシナリオは学校改善でも必要不可欠である。

さらに，資質・能力を明確に打ち出した教育目標を家庭や地域とも共有されなければならない。これらの組織化・動態化する教育活動は教育目標とビジョンに沿って，展開することになる。それゆえ，各学校は教育目標，教育ビジョンを設定するプロセスを見なおす必要性がある。カリキュラムマネジメントの概念に述べられたとおり，設定された教育目標を達成できたか否かを点検し，その改善点を見出し，次のカリキュラムデザインにつながる。筆者は前論でまず，2021年度の上越の小学校のホームページに掲載している48校のカリキュラムグランドデザインを対象にし，教育目標の内容を考察し，資質・能力の明確さについて分析を行った。その理由としては，上越市は全国のカリキュラムマネジメントの先端地域であり，「視覚的カリキュラム」の定着，小・中学校のカリキュラムグランドデザインの情報公開が進んでいるからである。その結果，多くの学校の教育目標が抽象的であることが分かった。その研究の続きとして，本論では特に新しい資質・能力が具体的に盛り込まれた教育目標を設定した学校として二校を抽出した。具体的には上越市立大手町小学校と上越市立春日新田小学校を研究対象校にする。

上越市大手町小学校の教育目標は「生活手段を創造し，獲得できる知恵のある子供　強靭で柔軟な心をもち，温かい人間関係をつくれる子供　困難に打ち勝つ気力・体力のある子供」で，重点目標は「自ら学び，共によりよく生きようとする子供」になる。教育目標の中には重点目標が掲げられた「自ら学び」の趣旨がないことが分かる。上越市春日新田小学校の教育目標は「思いやりの心をもち，協力し合う子　共感性と社会性，人間関係形成力の育成　深く考え，工夫して学習に取り組む子　意欲や思考力，判断力，表現力，主体的に学ぶ態度の育成　進んで体を鍛え，自ら生活を築く子　バランスのとれた体力とよりよい生活習慣を身に付ける態度の育成」で，重点目標は「認め合い進んで学び合う学年，学級づくり」になる。よって，教育目標と重点目標の関係性を見出すことができる。このよう

に，二校の教育目標はとりわけ明確に資質・能力を盛り込んで設定されたことがわかる。また，二校ともに，児童生徒の人間関係作り，主体的な学びを重視することが分かった。二校はどのように優先順位をつけて重点目標を設定したかについて今後の研究課題にしたい。

21世紀初期から上越市は，生活科や総合的な学習の時間を対象としたカリキュラムを開発していた。そして，2007年から社会の変化などから生じる教育課題に対応するために「上越市総合教育プラン」を実施しており，学校のカリキュラム研究と開発の先進地域として，カリキュラム研究を推進している。上越市立教育センター・上越カリキュラム開発推進委員会（2013）は，「学校のグランドデザインは目指す学校像や児童・生徒像などだけでなく，これらの実現を図るための具体的な課題と方策等を示した基本構想です。学校運営や教育活動の改善に直結するものであり，教職員間で納得いくものとして共有化されなければなりません。また，家庭や地域の理解や協働・参画が得られるように，記載内容を精選する必要があります。さらに，様々な場で活用していくことが大切です。」[20]と示し，カリキュラムハンドブックではグランドデザイン作成には，「１）学校評価に基づき，教育課題を焦点化する。自校の強みと弱みの把握，教育課題の焦点化。２）教育課題解決のための方策を立案する。重点目標等を達成する方策の立案と検討。３）グランドデザインに盛り込む内容を決定する。学校評価報告書との整合性の確保，学校運営協議会への提案。４）グランドデザインを効果的に活用する。グランドデザインに基づいた学校評価の実施，地域とともに歩む学校づくりの推進」という作成視点を明記した。「資質・能力の育成が中心的な課題になる中で，学校教育においては，教授から学習へのパラダイム転換が進行しています。カリキュラムとしてのデザイナーの教師の力量が求められるようになってきたといえます。」[21]今後，教員がデザイナーとしてカリキュラムグランドデザインの作成にかかわっていく時代になる。カリキュラムグランドデザインをどのように設計していくかを究明するために，筆者は，これから研究対象校のグランドデザインの構成内容を考察する。具体的には，上述のカリキュラムグランドデザインを作成する視点に基づき，主に，教育目標と重点目標の達成の道筋，全体の一貫性と一致性，特色の明確化，地域との連携の側面について特徴と課題を明かにする。

2. 2. 1　大手町小学校のカリキュラムグランドデザイン

上越市大手町小学校は，1977年に初めて文部大臣の研究開発学校として指定されてから，最先端のカリキュラム開発校として長年にかけて研究を進めている。平成30年度より令和３年までの４年間，「自立」と「共生」を目指す教育課程の創造に取り組んでいる。学校はこれからの社会を切り拓いていく資質・能力を「探究力」「創造力」「自律性」「論理的思考力」「コミュニケーション力」に整理し，これらの発揮を包括的に捉えながら自らの在り方につながる思考を「内省的思考」とした。教育課程の中核に位置付けている「探究」領域は子供が思いや願いの実現に向けて，友達と協働しながら問題解決していく姿に高い期待感を持つ。そして，これらの資質・能力の育成を目指し，「探究」「論理」「創造」「ことば」「自律」の５領域と「学びの時間」による教育課程を編成・実施している[22]。

また，大手町小学校は「学校・家庭・地域の同軸化」という教育理念が脈々と受け継がれてカリキュラムのデザインの実現を支えている。児童生徒の「やってみたい」「調べたい」「知りたい」ことを求めて，思い切り体験して，作文や学びのシートに書き綴り，しっかり振り返ることを通して，学びを自覚し，深めている[23]。カリキュラムグランドデザインには，図１のように，①教育目標，②重点目標，③大手町小学校が育む６つの資質・能力の説明，④６つの資質・能力を発揮させ，育む５領域＋「学びの時間」によるカリキュラムデザイン図，⑤学校・家庭・地域の同軸化，⑥資質・能力を発揮させ，育む５領域の説明，⑦子供が主体的に創り出す特色ある活動，⑧教育活動を推進する３つの校内委員会，⑨校長の挨拶という項目から構成されている。教育目標と重点目標以外に③④⑤の項目は，「探究力」をコアにし，「自ら学び，共によりよく生きようとする子供」を育成するための資質・能力に関する内容である。⑤学校・家庭・地域連携について具体的な取り組みと「同軸化」の説明を加えている。そして，カリキュラムデザイン設計図以外に，⑥では具体的に資質・能力を育む５領域の内容を記された。⑦子供が主体的に創り出す特色ある活動の「主体性」について写真で示した。抽出した資質・能力に関する記述が多く述べられ，①－⑦まで展開している。⑧は教育活動を推進する３つの校内委員会という組織体制が掲げられている。このように，大手町小学校のカリキュラムグランドデザインにおいて，育成すべき資質・能力の記述内容の比率が著しく高いことが分かった。また，児童生徒の自主性を重視し，探究力を中心により広い領域というスコープで教育活動を推進することが分かった。具体的に重点目標で掲げた「自ら学び」「ともによりよく生きようとする」について，③には，探究力，創造力，自律性，論理的思考力，コミュニケーション力，内省的思考の説明の中で見いだせる。また④の中に「探究論理的思考力・コミュニケーション力・創造力・自律性を発揮して横断的・総合的な問題解決をすることを通して，よりよい自分の生活や生き方を創っていく態度を育む」，「創造：自分にとって初めてのものや価値を創り出す力を育む」

「自律：他者（もの・こと・人）との関係の中で，よりよさを追求し，自分で行動する力を育む」から抽出できた。さらに，⑦に子供が主体的に創り出す特色ある活動が６枚の写真で表している。

図１．大手町小学校カリキュラムグランドデザイン[22)]

2. 2. 2　春日新田小学校のカリキュラムグランドデザイン

春日新田小学校は，1979年に新潟県から県教育推進指定校と指定され，縦割り型総合活動を推進してきた。また，1981年に文部省から「国語科の評価方法開発」の研究の指定を受けた。令和４年のカリキュラムグランドデザインには，図２のように，①教育目標，②重点目標と三つの柱の説明，③何ができるようになるか，何を学ぶか，どのように学ぶかの具体策，④学校の指導体制の充実（学習指導，豊かな心）のための方策，⑤特別支援教育，子供の発達をどのように支援するかの具体策，⑥健康づくりの実施方策，⑦家庭・地域との連携協働（子供，家庭，地域）の実施方策，⑧地域の子育て目標が含まれている。その中で，教育目標と重点目標を矢印でつなげられ，深い関連性を示している。

図２．春日新田小学校グランドデザイン[24)]

教育目標と重点目標以外に新しい学習指導要領の三つの柱で資質・能力を具体的に図式した。また，重要な改訂ポイントとして，何ができるようになるか，何を学ぶか，どのように学ぶか，子供の発達をどのように支援するかなどを明示し，具体的な実施方策を明確に打ち出した。例えば，「学習指導」には，「主体的な問題解決がある授業づくり，基礎的・基本的な学習内容の定着，家庭学習習慣の育成」などが含まれている。どの小項目にも具体的な指導の工夫，評価基準，方策などが記されている。ほかに，①から⑥まで，「認め合い進んで学び合う学年・学級づくり」の重点目標を軸に資質・能力，実施方策，評価を通じた改善に関する記述が含まれている。春日新田小学校のカリキュラムグランドデザインは新しい学習指導要領の改訂のポイントを入念に盛り込まれたバランスがよい構造図になっている。また，各項目が目標を達成するための具体策が記されている。

春日新田小学校は重点目標「認め合い進んで学び合う学年・学級づくり」を設定し，グランドデザインの中で共感性と社会性，人間関係形成力の育成に明確な指導体制，教育活動の方針を示した。例えば，「学びに向かう力・人間性等の涵養」には「他者を尊重し，自ら積極的に課題解決に貢献しようとしている」，「生きて働く知識・技能の習得」には「かかわり方スキルの良さが分かり，これを身に付けて話し合うことができる」，「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」には，「多様な考え方を認め，自分の考えを広げたり，深めたりして，他者に伝えることができる」とした。また「どのように学ぶか」にはかかわり方スキルを使った交流型学習を展開している。さらに学習指導には，かかわり方スキルを意識した交流型学習形態の導入（話す・聞く），「豊かな心」には，自己と他者の成長を認める振り返りの充実，全校SSE（ソーシャルスキル教育）とSST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施，いじめをしない，させない，見逃さない態度の育成のための全校体制の取り組み，学級コンサルテーション，仲良し班（縦割り班）活動も充実させている。このように，春日新田小学校は重点目標を達成するために，カリキュラムグランドデザインの各構成内容に具体的な方策が見られる。社会性，人間関係形成力を中心課題にして，一貫性と一体性をもつグランドデザインと言える。

表１．大手町小学校と春日新田小学校のカリキュラムグランドデザインの構成内容

学校名	カリキュラムグランドデザインの構成内容
大手町小学校	①教育目標，②重点目標，③大手町小学校が育む６つの資質・能力の説明，④６つの資質・能力を発揮させ，育む５領域＋「学びの時間」によるカリキュラムデザイン図，⑤学校・家庭・地域の同軸化，⑥資質・能力を発揮させ，育む５領域の説明，⑦子供が主体的に創り出す特色ある活動，⑧教育活動を推進する３つの校内委員会，⑨校長の挨拶
春日新田小学校	①教育目標，②重点目標と三つの柱の説明，③何ができるようになるか，何を学ぶか，どのように学ぶかの具体策，④学校の指導体制の充実（学習指導，豊かな心）のための方策，⑤特別支援教育，子供の発達をどのように支援するかの具体策，⑥健康づくりの実施方策，⑦家庭・地域との連携協働（子供，家庭，地域）の実施方策，⑧地域の子育て目標

上越市大手町小学校と上越市春日新田小学校のカリキュラムグランドデザインを考察した結果，以下の内容にまとめられる。春日新田小学校のグランドデザインが改訂された学習指導要領の三つの柱とカリキュラムマネジメントの充実に基づいた新しい要素を盛り込んだ全体バランスよいデザインである。また，教育目標，重点目標，および目標実現するための道筋が明確である。さらに，目標達成するために具体的な指導体制（学習，道徳，健康，特別支援の側面），家庭・地域との連携協働（子供，家庭，地域の取り組み）の組織経営，教育支援および改善策が練られたことが明らかにした。大手町小学校のカリキュラムグランドデザインは目標を達成するために教科を打破し，教育領域で教育内容を括り，子供の主体性を重視する教育活動の写真が多く掲載している資質・能力を重視するデザインである。二校ともに特色を明確に打ち出されている学校として考えられる。また，学校外地域・家庭との連携も重要視していることが分かった。

3 結論

カリキュラムグランドデザインは計画だけではなく，実施，評価も含まれる。カリキュラムデザインには計画の段階から児童生徒，保護者，地域住民，学校関係者のニーズアセスメントに答えられるように，ボトムアップを重視する必要性がある。同時にカリキュラム改善についてはPDCAサイクルの活用，評価システムの構築など，システム化思考が欠かせない。カリキュラムグランドデザインの実現には，学校の協働文化と連携文化，意思決定のプロセス，リーダーシップの発揮，教員の専門性向上，学校のカリキュラム研究開発の好循環などと深く関係を持つ。したがって，上述の要素を総合的なシステム思考が欠かせない。我々は教室レベルだけではなく，学校全体レベルのカリキュラムマネジメントの俯瞰の目を持ち，カリキュラムグランドデザインの作成をし，下位レベルのカリキュラムデザインの関連性と一体性を持ちながら，作成すべきである。どのデザインもカリキュラムグランドデザインに基づき設計しなければならない。本論は学校のカリキュラムグランドデザインの作成視点と課題として以下の三点にまとめられる。

第一に，学校のカリキュラムグランドデザインは学校のカリキュラムマネジメント活動と教育活動の最初のステップであり，カリキュラム実施を保障するものである。このデザインはただの計画書だけではなく，学校全体的な基本方針として指針化する必要性がある。特に，学校は育成すべき資質・能力をカリキュラムグランドデザインの主軸に据える必要性がある。カリキュラムグランドデザインには，学校のビジョン，教育目標，重点目標の他，子供の実態，社会と地域と保護者のニーズ，前年度の評価報告書による状況分析，課題と問題などの内容が含まれる。また，教育委員会，地域，保護者との連携も必要不可欠になる。さらに，子供の目指す姿，教員の目指す姿を明確にし，目標達成の手立てや戦略，道筋を明示することが必要になる。カリキュラムグランドデザインの作成には児童生徒の実態や地域・社会の実態に即して，教育内容を諸条件とのかかわりをとらえなおし，教職員，地域住民と保護者，主体的に参加してカリキュラムグランドデザインを作成することが重要である。教員はデザイナーでもあり，開発者でもあり，研究者でもあり，探究者でもある。

第二に，上越市立教育センターはグランドデザイン作成には，「１）学校評価に基づき，教育課題を焦点化する。自校の強みと弱みの把握，教育課題の焦点化。２）教育課題解決のための方策を立案する。重点目標等を達成する方策の立案と検討。３）グランドデザインに盛り込む内容を決定する。学校評価報告書との整合性の確保，学校運営協議会への提案。４）グランドデザインを効果的に活用する。グランドデザインに基づいた学校評価の実施，地域とともに歩む学校づくりの推進」と明記した。それ以外に，本論では各学校は新しい学習指導要領のポイントを盛り込む

こと，各学校の実情と児童生徒の実態に合うこと，合意形成の形態として学校内外の全員参加すること，多層レベルのカリキュラムデザインの一体性と整合性を保つこと，学校全体の計画を俯瞰して作成すること，学校の価値観，学校文化の形成の重要性を述べた。

第三には，上越市大手町小学校と上越市春日新田小学校のカリキュラムグランドデザインを比較し，考察した結果，以下の内容にまとめられる。春日新田小学校のグランドデザインが改訂された学習指導要領の三つの柱とカリキュラムマネジメントの充実に基づいた新しい要素を盛り込んだ全体バランスよいデザインである。また，教育目標，重点目標，および目標実現するための道筋が明確である。大手町小学校のカリキュラムグランドデザインが目標を達成するために教科を打破し，教育領域で教育内容を括り，子供の主体性を重視する教育活動の写真が多く掲載している資質・能力を重視するデザインである。二校ともに特色を明確に打ち出されている学校である。また，学校外地域・家庭との連携も重要視していることが分かった。カリキュラムグランドデザインはすべての教育活動を結束し，舵取りの役割を果たしている。その学校の実情に適合して，特色があるものが最善な設計図である。しかしながら，カリキュラムグランドデザインに基づき，実施がどのようにコントロールし，どのような成果を挙げたかについて，まだ二校とも不明確である。今後の課題にしたい。

注

(1) 文部科学省　平成29年　小学校学習指導要領
(2) 文部科学省ホームページ「カリキュラム・マネジメントについて」 http:www.mext.go.jp/contenet/1421692_5.PDF
(3) 中留武昭　田村知子　2004年『カリキュラムマネジメントが学校を変える』学事出版，11頁。
(4) 柴田義松『教育課程－カリキュラム入門』有斐閣，2000年，9頁。
(5) 文部省　1975年『カリキュラム開発の課題』
(6) 山崎保寿　2018年『社会に開かれた教育課程のカリキュラムマネジメント』学事出版　P.120．121
(7) アンドレアス・シュライヒャー著　ＯＥＣＤ編　小村俊平他訳　2019年『教育のワールドクラス　21世紀の学校システムをつくる』明石書店，95頁
(8) 斎藤義雄　倉本哲男　野澤有希　2018年　『教育課程論カリキュラムマネジメント入門』大学図書出版，PP.123-126.
(9) 田村学　2017年『カリキュラム・マネジメント入門』東洋館出版社　P.31
(10) 矢の浦勝之 2018年『カリキュラムマネジメントの進め方』小学校館　PP.5-13
(11) 高木展郎　2016年　「学力の３要素をバランスよく育むため学校全体でカリキュラム・マネジメント推進を」ベネッセ教育総合研究所　VIEW21，VoL.4　P.2
(12) デニス・ロートン　勝野正章訳　1998年『教育課程改革と教師の専門職性』学文社　P.26
(13) 西岡加名恵　2016年『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化
(14) 拙稿　2016年「カリキュラム評価におけるCIPPモデルの文脈評価の意義に関する研究」上越教育大学研究紀要，35号，PP.95-104.
(15) 中央教育審議会　2016年『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』P.23
(16) 学習指導要領　総則
(17) 学習指導要領　総則　P.18
(18) 野澤有希　2022年「学校の教育目標の設定の視点と課題に関する研究－上越市小学校における教育目標の分析を中心に－」上越教育大学紀要
(19) 稲田将人　2016年『PDCAプロフェッショナル』東洋経済新報社，P.17
(20) 上越市立教育センター　2013年『上越カリキュラムハンドブック』
(21) 松尾知明　2016年『未来を拓く資質・能力と新しい教育課程求められる学びのカリキュラムマネジメント』学事出版，P.173
(22) 上越市立大手町小学校ホームページ
(23) 上越市立大手町小学校　2022年７月「雲が希望を呼んでいる」学校だより令和４年第４号
(24) 上越市立春日新田小学校ホームページ

Investigation of the curriculum grand design content and notes: an analysis of primary school curriculum design in Joetsu

Yuki NOZAWA*

ABSTRACT

Through a study in two primary schools in Joetsu, Japan, this research sought to identify the perspectives and notes in the curriculum grand design, which is the first curriculum management stage. First, the importance of overall curriculum planning at each school was clarified. With the cultivation of new talent at the center, it is necessary that curriculum planning follow the learning guidelines provided by the Japanese Ministry of Education and Culture. Second, the integration of management and activities into the overall educational curriculum requires the active participation of staff, parents, and resident representatives from the surrounding area and the grand design should balance the different levels to ensure consistency. Curriculum management should also embody the school's values. The analysis and comparison of the curriculum designs at the two primary schools provided some guidance on the requirements needed for good curriculum design.

* School Education